

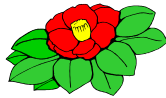


# ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2018

明けましておめでとうございます。2018年、そして3学期がスタートしました。忙しい時期になります。そんなときは心に安らぎを与えるような時間をとってみてはどうでしょうか。



1月むつき (睦月) ほつはるづき (初春月) さみどりづき (早緑月)

※二十四節気※

しょうかん 小寒 5日

寒さが極まるやや手前の頃です。「寒の入り」といい、節分までの約1か月が「寒の内」です。

だいかん 大寒 20日

一年で最も寒い時期です。酒や味噌など寒気を利用した食物が仕込まれ、これを「寒仕込み」といいます。

## 図書委員からお薦めの本

『風が強く吹いている』 三浦しをん著 新潮文庫

「箱根駅伝を走りたい」という灰二はいじの想いが、天才ランナー走かけろと出会って動き出した。「駅伝とは、どのような種目なんだ？」というところから始まるような10人の個性あふれるメンバーが、長距離を走ることになり前へ真っすぐ突き進んでいく。自分の限界に挑戦し、ゴールを目指して襷を繋ぐことで、仲間と繋がっていく、とても感動する物語です。自分の目標に向かう姿勢や考え方を改めて感じる事が出来たし、部活や勉強に必死な僕たち高校生にとって、ぴったりの作品だと思います。ぜひ、読んでみてください。



(105 曾我)

(新潮社HPの紹介文を参考にした。)

## 平成29年度第2回図書委員会図書館読書会記録

- 1 日時 平成30年12月15日(金) 放課後 15:40~、本校図書館にて
- 2 テーマ 宮沢賢治『オツベルと象』
- 3 準備物 あらかじめ文庫本などで購入し、読んでくる。作者年譜、参考プリント。
- 4 当日



(1) 本文音読

(2) 自由に感想を話し合う。:「全体として何が言いたいかわかりにくかった」「気のいい白象を使ったあげく天罰が下った話なのか」「牛飼いが誰かに語るという形式にした効果は?また、白象を見世物にするのではなく労働させたのはなぜ?」「当時は資本家が労働者をこきつかうということがしばしばあって、そのたとえなのだろうか」「なぜ白い象なのか」「『サンタマリア』とは何か」





(3) 語り手はいったい誰で、誰に向かって語っているのか? : 「オツベルの近所に住む人で、聞いている人間の子どもが居るのでは」

(4) この日付は何を示すのか? : 「オツベルを金儲けのうまい大したやつだと思い込んでいたが、オツベルが死んで、それをどう考えていいかわからないので考えていた。聞き手からオツベルのその後を聞かれ、第5週を語り出したのか」

(5) 子象が「さびしく笑った」のはなぜか? : 「オツベルを信じていたけど結果がわるかったから」「自分は愚かだったという自分への悲しみでは」「まだ子どもなので深くは考えられない。親しいオツベルの死を悲しんでいるだけでは」「いじめっ子でも友達だということか?」「自分との関わりの中でオツベルが死んだからでは」「この暴力による解決は本当の解決ではないとわかっていたからでは」

(6) 子象はこれからどうするのだろうか? : 「森に戻る」「働くことが楽しいとあるので、人間の社会にまた来て働くが、今までよりは賢く振る舞う」「いや、今回のことがトラウマになり森に引きこもるのでは」

(7) 他に気づいたことは? : 「ラストで銃弾がパチパチ顔に当たるところと、冒頭で靱がパチパチ顔に当たるところと呼応させているのはなぜか」「ラストで冒頭（オツベルと象の出会い）を読者に想起させるため」「白象もやがて救助の巨象の仲間になるということでは」

(8) 赤い衣の童子とは何か? : 「ソ連赤色革命が成立したころなので、赤色には共産主義のイメージを込めたのでは?」「それはすごい解釈だ。赤色暴力革命では真の解決にならないと賢治はこの作品で言おうとした、という学説はある」「子ども向けの話なので赤とんぼのイメージか。赤衣は高位の印か。検非違使庁の火長（かちょう）の狩衣の色か。南方の守護神・軍荼利夜叉明王（ぐんだりやしやみょうおう）は夏・炎暑・赤色のイメージを持つ。こういった仮説を立ててみた」

(9) 「サンタマリア」とは何か? : 「マリア様に祈っているのか」「ではキリスト教なのか」「白象はまだ子どもで、『サマンタ・パドラ』を正確に言えずこうなまったとする意見がある。サマンタ・パドラとは、普賢菩薩（ふげんぼさつ）のこと。普賢菩薩は釈尊の傍らにあつて、白象に乗って衆生を救済する。白象は普賢菩薩に祈っていたのだ。白象はあまりにもイノセントで今回は悲劇を招来してしまったが、その反省を機に生まれ変わって普賢菩薩を乗せる象になる。この話は普賢菩薩の乗り給う白象の前生譚なのだ、とする見方があるが、どう考えるか」「それは筋が通っている」

## 5 全体感想

参加者は生徒4、教師1と少人数だった。マラソン大会順延の余波で読書会の日程も変更になったからだろうか。図書館も寒かったが、少人数のおかげで、ストーブを囲んで小さく座り、深く話し合うことができよかった。その後賢治の年譜を確認し、当時も東北で地震・津波があつて死者・不明2万人以上だったことや、そのせいもあつて東北は貧しかったが賢治の家は商店で豊かだったこと、賢治はそれに負い目を感じて利他的な生き方に邁進したこと、「雨ニモマケズ」手帳の続きに日蓮宗の法華経の曼荼羅（まんだら）が書いてあることなどを確認した。

